

決算審査特別委員会

日 時 令和7年9月4日（木）

13：00～14：49

場 所 議場

出席者 議長、副議長、議員7名（欠席：なし）（傍聴者：なし）

説明員 実延総務課長、石倉室長、花倉室長、関口参事

書 記 長崎局長、倉光書記

○岡本委員長 皆様、午前中の本会議はお疲れさまでした。午後は決算審査特別委員会です。決算審査特別委員会、開会いたします。

午前中の委員会で委員長に選ばれました岡本です。よろしくお願いいたします。

例年どおり、課ごとに審査を行ってまいります。委員の皆様には、厳正な審査と議事のスムーズな進行に御協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、本日午後は、総務課の審査というふうになります。総務課の審査は、主要施策の成果及び財産に関する調書に従って行ってまいります。総務課は、紙ベースの資料の25ページからになります。まず、総務課を、総務費の部分とそれ以外の部分と2つに分けて説明していただきまして、その都度、質疑をしていただくというふうに進めたいと思います。

それでは、総務課からお願いします。

実延総務課長。

○実延総務課長 それでは、本日から決算審査特別委員会よろしくお願いいたします。

総務課の説明に入らせていただきますが、説明員を先に紹介させていただきます。

私の隣から、石倉総括室長兼財務室長でございます。

○石倉室長 よろしくお願いします。

○実延総務課長 その隣、花倉総務室長でございます。

○花倉室長 よろしくお願いします。

○実延総務課長 その隣、関口参事でございます。

○関口参事 よろしくお願いします。

○実延総務課長 以上、4人で説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、委員長からございました、まず予算審査特別委員会の令和6年度でございます。審査意見に対する対応から説明に入らせていただきます。全般事項でございました、まず、1点目の予算説明附属資料の記載内容の充実との意見についてでございます。作成に当たりましては、各課丁寧な記載とチェックを行うよう、まず総務課からアナウンス、案内を行いまして、それぞれ努めていただいたところでございます。記載内容につきましても、より分かりやすく記載するよう促してまいりましたが、またお気づきの点がございましたら改めて御意見頂戴できればと思っております。

2点目の事務処理の適正化についてでございますが、総務課所管の事務につきましては、優先順位を持って職員も努めてまいったところでございますが、年度末ぎりぎりとなる事務もございました。進捗には留意しながらも、より詳細に計画を立てて進められるように努めてまいりたいと思います。

以上、先に令和6年度予算審査意見への取組状況への説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○岡本委員長 そしたら、そうですね、まず今の審査意見に対する説明に対して質疑ございましたら、どうぞ。（「なし」と呼ぶ者あり）よろしいですかね。

そしたら、じゃあ、総務費のほうから説明のほうお願いします。

實延総務課長。

○實延総務課長 続けてでございますが、早速、決算の説明に入らせていただきます。

ページ番号は26ページ目から27ページになります。一般管理事務でございます。一般管理事務、令和6年度決算額5億1,570万6,895円。対前年度比較は2億4,172万4,026円の増額でございました。不用額につきましては4,080万円余りで、職員人件費、報償費、各種負担金などで生じております。

主な増額要因でございます。会計年度任用職員のほとんどの人件費を一般管理事務での一括管理といたしました。また、令和6年度から会計年度任用職員の勤勉手当が開始となりました。これらの影響によりまして、給料、職員手当、共済費の人件費は2億1,400万円の増となっております。また、ふるさと納税に係ります報償費も、実績とともに約680万円ほど増加しております。

一方、主な減額要因でございますが、負担金補助及び交付金が約320万円の減少となりましたが、こちらにつきましては退職手当組合の負担金減額によるものでございます。

主な成果と課題について記載しておりますけども、ふるさと納税の中間管理事業者を変

更いたしまして、新規商品も大幅に増やしたところでございます。また、令和6年度も商品取扱いのポータルサイトを2つ増やしまして、消費者の方が商品を手に取りやすい環境の充実に努めました。令和6年度、結果に大きく影響した要因としましては、お米に関する取扱いでございました。この影響は令和7年度も続いておりまして、新米の予約を受ける形で昨年度末から今年度当初までの実績に大きく影響を及ぼしてございます。その他、今後商品化されるものも幾つか予定をしてございます。町内事業者の皆様には意欲的に取り組んでいただいておりますので、行政も成果につながるよう努めてまいりたいと思います。

企業版ふるさと納税につきましては、町とつながりのある企業様から御寄附頂戴し、大幅に伸びました。中には、物による寄附を受けたものもございますが、本年度も消防ホースの御寄附をいただく予定があり、本町のプロジェクトに賛同いただける企業の皆様にさらに応援していただけるよう、金融機関等とも連携しながら取り組んでまいりたいと考えてございます。主な執行経費、財源については記載のとおりでございます。また、午前中、1件訂正をいたしました。共済費の欄、改めておわび申し上げます。御確認をよろしくお願い申し上げます。

続きまして、28ページに入らせていただきます。職員健康福利厚生事業でございます。決算額419万3,913円、比較25万948円の増。主な増額理由ですが、産業医の報酬を令和6年度から支給、年額24万円の委託料が新規となっております。健康診断など、実績は記載のとおりでございますが、人材育成研修を充実させるとともに、管理職のマネジメント強化に力を入れ、取り組んだ年度でございました。メンタルヘルス不調によりまして休職を余儀なくされる職員もおりますが、何でもすぐに総務課や保健師あるいは産業医が対応するのではなく、いわゆる各所属ごとのラインケアを徹底することにより、各所属において早期に対処していくこと。また、職員個人個人がキャリアカウンセリング等を活用しまして、事前に対処をしていくセルフケアの充実に努めたところでございます。

また、支出は伴いませんが、フレックスタイム制度のお試し導入、軽装勤務の実施など、働き方改革プロジェクトチームによります新たな取組を行ったところでございます。今後も職員の心のサポート、働きやすい職場環境づくりに引き続き努めてまいります。主な執行経費、財源については記載の内容でございます。

続きまして、29ページ上段、文書管理事務でございます。決算額613万1,395円、比較319万9,601円の増です。主な増額要因でございますが、文書決裁システ

ムの運用保守330万円が皆増となっております。その他の業務につきましては、ほぼ例年並みの実績でございました。

成果と課題でございますが、文書決裁システムの導入によりまして、令和6年度は移行期間と位置づけ、紙文書でも電子文書でも決裁はどちらでもよいという運用を行ったところでございます。慣れるまでの負担は増えたかとは思いますが、令和7年度は原則電子文書決裁のみの方針としまして、事務負担の軽減が図られていると思っております。細かい課題はございますが、DXの成果として分析も今後も行っていきたいと考えてございます。主な執行経費、財源については記載の内容でございます。

同ページ下段、財政管理事務でございます。決算額1億4,514万3,190円、比較5,305万2,854円の減でございます。調書への記載のと通りの基金積立てを行いました。実績に見られますとおり、繰越金の剰余金、積立分は減少したところでございます。今後、様々な大型事業も予測されるところでございます。財源の確保、基金の有効活用など、予算編成から有効な財源確保に努めてまいりたいと考えてございます。

続きまして、次ページ、30ページ。町有財産整備管理事務でございます。決算額2,457万6,268円、比較814万8,925円の増でございます。主な増額要因ですが、公共施設の新たな利活用の可能性を調べるサウンディング調査実施のサポート業務委託料313万5,000円が皆増でございます。建物の修繕費用がかさみまして約270万円の増となったところでございます。道の駅のエアコン改修、大宮のセンターの給水管修繕、小学校の暖房システムの修繕、日南邑のバス修繕などに取り組んだところでございます。今後の大型投資を控えまして、修繕、改修につきましては個別施設計画に基づき運用してまいりたいと考えておりますけれども、財政負担の平準化を図ることも取組課題の一つと考えてございます。活用、処分等含めまして具体的検討は毎年の予算編成においてしっかりと議論、検討し、随時計画に反映するよう全庁的に取り組んでまいりたいと思っておりますし、本年度の取組の中では、行財政改革の取組の一環として個別施設計画のそれぞれの計画について、来年度以降どう取り組むのかという方針についても着手しております。そういったところも全庁的にしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

続きまして、31ページ、庁舎管理事務でございます。決算額2,674万5,534円、比較1,882万9,950円の減でございます。主な減額要因でございますが、令和5年度に行いました庁舎装飾灯改修工事費99万円、また庁舎開口部防水板工事979万円と、その事業に伴います事業支弁職員人件費の皆減が影響してございます。本年度は、

職員事務用椅子を40脚購入しまして順次更新いたしました。206万円の実績でございました。また、携帯助聴器を購入しまして、住民課窓口へ配備させていただきました。令和4年度から、庁舎の一部を山陰合同銀行に貸し付けさせていただいております。それに伴います国庫納付金も継続してございますが、国庫納付につきましては令和7年度で終了予定でございます。その他、光熱水費が55万1,000円の増、修繕料は22万6,000円の減額でございました。その他の事業の成果につきましては記載のとおりでございます。

続きまして、32ページ上段、庁用自動車管理事務でございます。決算額682万9,679円、比較82万1,883円の減。主な減額要因でございますが、備品購入として令和5年度は軽バンを購入いたしましたが、その経費が皆減となっております。その他にはバス等の運転業務に係ります報酬が11万6,000円の増額、車両の借り上げ費用が21万4,000円の減額となっております。その他、主な執行経費については記載の内容でございます。

下段、交通安全対策事業でございます。決算額151万6,368円、比較2万1,964円の減でございます。減額の要因ですが、指導員報酬がマイナスの8,900円、需用費が1万2,000円の減でございました。その他、執行経費は記載の内容でございます。

続いて、33ページ上段、自衛官募集事務でございます。決算額2万円、比較200円の増。例年どおり、国の委託金を受けまして募集事務に協力させていただいているものでございます。

続いて、33ページ下段、選挙管理委員会一般事務でございます。決算額7万4,500円、比較1万4,000円の減。減額理由でございますが、いわゆる明推協の総会について書面決議とさせていただいたことにより、委員報酬が減額執行となったものでございます。選挙管理委員会定時登録に係ります年4回の委員会を開催してございます。

続いて、34ページ、衆議院議員選挙執行事務でございます。決算額649万615円の皆増でございます。10月27日執行の選挙に係ります事務執行を行ったものでございます。実績、主な成果につきましては記載の内容でございます。御確認をお願い申し上げ、総務費までの説明とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○岡本委員長 そしたら、総務費まで説明していただきました。

そうしましたら、質疑は事業ごとにお受けします。まず、26ページに戻っていただきまして、26ページの一般管理事務から質疑をお受けします。どうぞ。

大西保委員。

○大西委員 まず、ふるさと納税の実績を見ました。個人版、企業版入れて5,900万、まあ6,000万円ということですが、令和6年度の目標金額は、まずは幾らだったんでしょう。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御質問いただきました、ふるさと納税の目標金額ですが、KPIのほうで目標としておりますのが5,000万円としております。以上です。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 当初予算の説明では1億円と書いてあるんですよね。途中から5,000万になったということは、逆に言えば、6,000万になったことは、途中経過でも一旦下げた中では120パーという判断でよろしいでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 御指摘いただきましたKPIの目標値の見直しにつきましては、御指摘の通り6年度の途中で見直しを行ったものであります。目標といたしましては下がったものではあります、課長の説明にもありましたように、町の魅力をお伝えすると、選んでもらえる返礼品等を出していくんだという取組を行ったこともありまして、結果として約6,000万円ということで、下がった目標ではありますクリアすることができたのかなというふうに考えるところです。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 説明では、いろいろ努力されて、新規商品であるとか米とかということで大変努力された結果だと思います。そこで、予算についての執行状況の確認なんです、まず、報償費が、予算では報償費の中のコンサルティング料、寄附金等々ありますけども、報償費のふるさと送料とかお礼代で1,604件ですが、26ページでは合計すると1,329件なんです、これは400件ぐらい多いんですが、どういうことでしょうか。例えば、1つの件でAさん、Bさん2つ送った、だからそうなったのか、ちょっとこの件数、寄附件数と、こちらのふるさとのお礼品の件数が1,600件、そして1,000万の費用も発生しとるんですね。予算では3,000万になっとるんですけども、その差は何ででしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。予算を計上する際には、先ほど言っていただきました、当初目標としては1億円の目標額を掲げておりました。国のルール上、そういった返礼品に使えるお金が3割までというところがございますので、1億円を達成するとすれば3割分の返礼品代が必要になるだろうということで、約3,000万円の予算化をさせていただいておりました。実績といたしましては、実際、目標に対しては届かなかったということもございます。また、今おっしゃっていただきましたように、1人の方が複数回、何ていいですか、寄附をいただいたりということもございますので、また、その寄附も、例えば5,000円のものもあれば1万円とか2万円のものもありますので、1件必ず幾ら入ってくるというものでもない、幾らかかるというものでもないというところもありますので、想定と、思った件数、金額がずれているというところもあるのかなというふうに思うところ です。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 そこで教えていただきたいのが、このお礼が1,000万円になつとるわけですね。個人のやつは大体3割ぐらいの返礼品。となれば、それを3掛けたらもう1,000万。そして、企業版についてはお礼は要らないんでしょう。それはありがとうございますと言うだけなのか。要するに、お礼品代、送料もありますけど、1,000万円なんですね。じゃあ6,000万円頂いて1,000万でということは、大変15%ぐらいな んでいいんですが、その辺の内訳どうなんでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御指摘のように個人版のほうは、先ほど言いましたように3割までということにさせていただいております。企業版につきましては、そういったお礼と いうか、何かお返しするというのは、原則いけないというふうにされております。また、 そういった、なら、じゃあ経費がかからないかというわけではなくて、コンサルティング料 金等、銀行さんとかにお手伝いいただいた分の経費が発生しております。また、個人版の ほうでも送料ですとかコンサル料等も発生してまいりますので、そういったところがかか ったものも合わせた書き方をさせていただいておりますので、全体で見れば、今言われた 15%ぐらいというような、ちょっとずれた数字になるのかなというふうに思うところ です。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 それでですね、ふるさと納税事務委託料というのは、予算では290万、そして決算では323万1,000円、約10%アップなんですね。この290万は、1億に対してか5,000万に対しての事務委託料なのか。そして、実際に予算よりも10パー委託料が上がっておるんですが、件数的にはそうではないと思うんですね。その辺の10パー上がった理由は何でしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。想定より上がったところがございますが、実際の寄附いただいた額に応じまして、システム使用料等ですとか事務委託料のほうを計算させていただいております。予算を組んだ際には、これまでの金額、大体的見込みから予算を組んでいたというところもございまして、実際には、ちょっとずれが生じたというところだと考えております。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 これでこの分は終わります、1点だけ。職員研修負担金というのはあるわけですが、これが予算では106万4,000円で、実際に実績は151万ということで50パーぐらい上がってますが、この要因は何ででしょう。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。職員研修負担金のほうの主な内容といたしましては、人材開発センターへの職員の派遣に伴う負担金、また地域農政未来塾への参加のための負担金というところが大きなものというふうに思っております。当初、想定した際には、具体はつきり分かっているものは積み上げで入れておりましたが、あとは職員がいろんな研修に行けるようにということで、若干枠取りの予算の取り方もさせていただいておりました。そういうところもあって、実際の決算と予算のほうのずれが出たのかなというふうに考えるところです。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 予算は100万、簡単に言いますと。それで実績150万、やっぱり50%なんですね。やはり年間計画の中で各課何人ぐらい、それ当然目的がありますから。大体10パー、20パーの増はいいと思うんです。あまりにも50パーというのは、その辺はどのように判断されたのか。いいんですよ、研修されるのは。当然、目的があって、行きたいということはいいいんですが、あまりにもちょっと、50パーというのは乖離し過ぎかなと思っておるんで、ちょっと聞いたわけですが。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 御指摘を踏まえ、また今後にも生かしてまいりたいと思いますが、令和6年度につきましては、当初見込んでいた、大体見積りをする際には昨年度までの実績を基に見積りを立てる、計画、予算を立てるわけですが、より積極的な職員の研修への参加という意向もあったというふうに御理解賜りたく存じます。ただ、それではいけませんので、今後にもより計画的にも進められるように努めてまいりたいと思います。

○岡本委員長 よろしいですかね。

○大西委員 はい。

○岡本委員長 そしたら、岩崎昭男委員。

○岩崎委員 ふるさと納税のことについて何点か伺いたと思います。ポータルサイトを8サイトから10サイトということで増やされました。ちょっと、一覧表出せとは言いません、ふるさと納税額の多かったサイト、上位3つほど順番に教えていただけたらと思います。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。ポータルサイトで多かったところから上位ということになりますと、多かったところは、ふるさとチョイスさんとか、ふるなびさん、楽天のふるさと納税のサイトさん、これらが上位3つのサイトというふうになっております。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 個人版のふるさと納税、県内で下から2番目という非常に低い額でございます。もっと頑張っていたきたいなという思いをちょっと、これはこの決算とはあれなんですけども頑張っていたきたいなと思うんですけど。

あと、企業版のほうも頑張っていらっしゃるんですが、積極的な営業活動を行ったとありますが、具体的にどのような営業活動があったのか、例を2つ3つ教えていただきたいと思います。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。企業版ふるさと納税における主な営業方法ではございますが、1つはコンサル企業さん、合銀さんとか、そういった銀行さんとか、そういったところとの連携を密にしまして、全国規模でそういった企業さんから、こういった寄附情報があるんですけど、どこか自治体ないですかという情報があった際には、なるべく早く日南町のほうに情報をいただくようにしまして、こちら、いただいたときにすぐコンスタントに返

事を返せるようにしております。そういったこともありまして、例えば最近ですと、今回の7年度の予算にはなりますが、消防ホースの寄附のこともあったんですが、あれも全国でこういった寄附があるんだけどというような情報をいただきまして、すぐにうちの防災担当のほうとも連携を取って、うちのものが規格に合うかですとか、何本欲しいかとか、こういったことが考えられるかっていうのをその日のうちに返事をして、そういったこともあって、全国でもかなり早いうちに日南町のほうは寄附が決まったというふうに伺っております。そういったことをさせていただいています。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 最後に、先ほどのポータルサイトなんですが、10サイトある中で、このサイトのふるさと納税に係る経費っていうのは、実際にそこで申込みがあったものに対しての例えば手数料何%という形であって、例えばそれがゼロだったとすれば経費というのはかからないものなのか、やっぱり一定額の基本料金的なものが必要なのかどうか、そのことを伺います。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御指摘のように、ポータルサイトについては基本料が若干かかった上で件数に応じてさらに何%という支払になっておりますので、今、今回8から10に増やしたわけですが、中にはすごく少ないサイトも実際ありまして、そこに近年、例えばゼロというところもあったりしましたので、そこについては年度末の契約更新の際にやめさせていただきまして、年度中途に新たに申込みをして増やしたという形で今回8から10という形でさせていただいております。

○岡本委員長 櫃田洋一委員。

○櫃田委員 職員研修事業をお伺いします。この市町村職員中央研究所2名ということですが、成果はなかなかすぐには分からない、判断できないと思いますが、この2名の研修の成果、成果というか、これに関してどのようにお考えでしょうか。

○岡本委員長 花倉室長。

○花倉室長 こちらの2名が行った研修は、働き方推進プロジェクトで企画をしたフレックスタイムの導入に向けた研修のほうに行かせていただいております。今は試験運用という形で運用をしておりますが、利用者も今9名程度利用するということで、多様な働き方の導入につながっているものというふうに判断しております。

○岡本委員長 櫃田洋一委員。

○樫田委員 私は、この中央研究所ですから恐らく全国から集まれるじゃないかなと思うんですけども、この下の鳥取県人材研究開発センターっていうのは県内でしょうから、それはそうなんでしょうけども、この全国の研修にやっぱりもう少し多く行かれて、全国の自治体の状況を把握、意見交換であったり、それは講師の先生の状況であったりするもので、やはり全国の研修ももう少しやっぱり行って、職員が勉強されるべきじゃないかなと思うんですが、どうお考えでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御意見いただきましたように、職員研修につきましては積極的に総務課のほうから、こういった研修がありますというような声かけはさせていただいております。ですが、さらにもう一步踏み込んで、あなたに、例えば、合ったこういうのがあるからぜひ行かないかとかっていう、そこまで強く推していないというところもございますので、御意見もいただきましたので、今後またそういった研修のPRですとか声かけというのもしっかりしていきたいと思います。

○岡本委員長 近藤仁志委員。

○近藤委員 ふるさと納税ばっかしになって恐縮ですが、この企業版ふるさと納税が大幅に伸びたわけなんですけど、その企業版ふるさと納税の内容ですね、その募集内容というのはどういった基準で、かつてはこちらの日南町のほうで事業を提示して、その事業に協力してもらえませんかというような企業版のふるさと納税の募集をされていたように思いますが、今もそういう形でふるさと納税の企業版のほうはされておられますか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。企業版のふるさと納税につきましては、御指摘いただいたようにこれまでと同じルールで、町で行ってる取組事業について御賛同いただけたらとか、企業のほうが全国でそういう事業を探してるので日南町が手を挙げたとかっていう形で、やり方としては同じやり方をさせていただいております。

○岡本委員長 近藤仁志委員。

○近藤委員 昨年度のその事業の内容というのは、その募集の内容はどういったものを企業のほうに訴えられたわけですか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。寄附の中で一番多かったのは、森林環境の育成ですとか、林業アカデミーのそういった取組に関しての寄附であったり、環境保全または観光振興といっ

たところで寄附をいただいたものが多かったというふうに思っております。

○岡本委員長 近藤仁志委員。

○近藤委員 それで、補正予算のほうで、このふるさと納税の企業版のほうで2,000万ほど減額されて、3月議会でしたか、その内容、その時点で聞いたかもしれませんが、それが3月の時点でコンサル料の2,000万円減額されたという要因について、ちょっと説明をお願いしたいと思います。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。当初予算の際、6年度の当初予算を作成する際には、個人版と企業版合わせて1億円の目標額というのを掲げておりました。それに合わせての個人版、企業版それぞれのコンサル料というのを積算していたつもりですが、実際、年度が終わる頃になっておおよその見込みというのが見えてまいりましたので、また、目標額につきましても1億円から5,000万円に下げたといったところもございましたので、実際の金額に合わせるようにということで2,000万円分下げさせていただいたというものになります。

○岡本委員長 よろしいでしょうか。

そしたら一般管理事務はここまでにしまして、次に28ページ、職員健康福利厚生事業について質疑をお受けいたします。

大西保委員。

○大西委員 いつも聞くんですけど、ストレスチェックはもうここ数年100%達成しておられて、これは大変いいことだと思います。質問は、報償費のところで研修会講師謝金19万5,000円が上がっております。予算上では管理職及び一般職向けに19万5,000円、これは一致するんですが、予算の職員の健康づくりって、これ20万が上がってるんですが、これは決算のほうでは上がってないんですが、これは不用になったんでしょうか。それともどっかにまぎれ込んでるのでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御指摘いただきました当初予算で上げておりました職員の健康づくり研修につきましては、実際、研修をさせていただく中で、ちょっと事業のやり方のほうの見直し等もさせていただいたところで、実際この研修については行っておりません。代わりにではないですけども、ワークショップという形で勉強会といいますか、職員同士の気づきだったりとかっていうのを促すような研修会のほうを行っておりますので、全く

してないわけではないんですが、当初上げたこの形での研修というのは行っておりません。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 そうなれば、やはり予算のときは予算で、決算は決算。で、こういう実績でしたよと。今の説明でいくと、ちょっと変わった形になったから。そうなっておれば、そこではやっぱり事業の成果、課題というところを書くべきではないでしょうか。質問しないと出てこないというよりも、やはりそれは執行側として、変化点というんですか、質問してなかったらこの件は全く分からないわけですね。このように、よくしていくためにこうだったけども、当初予算では。でも途中でいくと、執行に当たってはやっぱりこうしたほうが良いということがあったらそれを書いて、それを次の予算に生かしていただきたいわけですね。もう7年度予算は入ってますけども、6年度の実績、今聞いてそう思ったんですが、いかがでしょうか。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 御指摘のとおりだというふうに思います。しっかりと明記に努めたいと思います。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 先ほど口頭でフレックスタイムの施行というようにこともおっしゃいましたが、具体的にどのような形で行われたかというのを伺いたいんですが。例えば、出勤するとか退勤の時間とか、そういうようないわゆる時間をずらしての出勤のことだと思うんですが、具体的にはその時間をどういう時間にしたのかということ。それから、対象者はどのように選んだのか。実際に行った人数、そしてその効果を伺いたいと思います。

○岡本委員長 花倉室長。

○花倉室長 フレックスタイムについては、いわゆるコアタイムというものを定めまして、毎日10時から3時までには必ず出勤しなければいけない時間というふうに定めをしております。その後、毎月17日ぐらいまでに課長のほうまで、こういった形で勤務をしたいということで申請をいただきまして、承認を得られた場合には勤務表のほうに登録をして、また、フレックスタイムでいなくなったといったことで職員がどこにいるか分からないというのは困るもので、スケジュールのほうにフレックス勤務ということで何時から何時まで勤務という登録をして、それからフレックスに臨むという形を取っております。

令和7年3月までの利用者ですが、8名の実績でございました。6年度中は8名の利用ということで、時間外をしないと勤務が進まないとか、そういった勤務のところはフレッ

クスを当てて、休めるときに休むと、めり張りをつけた勤務ということで、利用された方にはおおむね好評をいただいているところです。

○岩崎委員 分かりました。

○岡本委員長 私のほうから、すみません。今、フレックスタイムのお話が出たのでちょっとお聞きしたいんですけども、例えば、育児中の方がフレックスタイムを利用して、何ていうんですかね、例えば、朝の忙しい時間帯の対応をフレックスタイムにしてできるとかっていう、そういうケースもあるという、そういう使い方もあるというふうに聞いたんですけども、具体的なそういった例があったかどうかとっていうことは分かりませんか、分かれば。

花倉室長。

○花倉室長 利用される方、その時間勤務が厳しいということで時間をずらされるという使い方もちろんですので、そういった利用の仕方もあるんですが、6年度中の利用されたという方の実績では、そういった利用はございませんでした。

○岡本委員長 そうすると、何ていうんですかね、人それぞれでフレックスタイム使うのはもちろんいいことなんですけれども、具体的に特にどういった目的で使えるとっていうことが分かればですけども、そういうのはあまり調査してないですか。ちょっと質問のあれが悪いんですかね。要するに、フレックスタイムにすることによって、何か好評というのは分かったんですけども、もうちょっと具体的にこういうことができたってということが分かればと思ったんですけども、ちょっとそこまでは分からないですか。

石倉室長。

○石倉室長 昨年利用された方の声ということで聞いたところでは、町外から通勤される方などが、通勤時間をずらして出勤したい、または退勤の時間をずらしたいという方であったり、育児と呼ぶか分からないんですが、例えば小学校とか中学校の子供さんの送迎だったり、放課後のクラブとかに送っていかなくちゃいけないとなると早く帰りたいと。なので、勤務時間を1時間前倒ししてずらした形でというような形で利用されているというような声を聞いたものがあります。

○岡本委員長 分かりました。

大西保委員。

○大西委員 今、フレックスタイムのことを言われて、実際に8名の方がこの6年度でされた。今現在、7年度もそれを継続して何人ぐらいされとるんですか。

○岡本委員長 花倉室長。

○花倉室長 7年度の利用者は今のところ、延べ人数ですが10名の方が使われています。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 これも決算の審査ではないんですけど、私自身も20年ほど前、フレックスタイムやってみました。これはあくまで、製造会社でしたらこれはできません。管理職、管理というか、管理部門とか事務職部門はそれでフレックスタイムはオーケーなんですよ。製造部門は、休んでしもうたらもう何にもできませんので。そういった意味で、慎重、要するに、自己管理ができない方はしないほうがいいです。要するに何が言いたいか、時間にルーズな方。要するにきちっとこれを管理できる、それでそのときは、パソコンで自分で時間を全部入力して、上司にも分かるようにというような形にしないと、その人が、先ほどいないとか、今後やるときに十分慎重にやってください。確かに、使い方にはいいんですけど。それと、会議する場合にも、もうコアタイムだけの会議とかね、なりますから。誰か1人フレックス使ったらもう会議ができないってなりますんでね。そういうことを今後やる前に、せっかくこの決算のほうで今言われたんで、参考にさせていただきたい。要するに、会議もコアタイム内でやるとかなると思うんですよ。意見で、これは。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 参考にさせていただきます。

○岡本委員長 そしたら、私から1つちょっとお聞きしたいのは、育児休業の取得人数、日数、それからできれば男女別にそれが分かればいいんですけども。今は分かりますか。花倉室長。

○花倉室長 6年度の育休の取得は2名ということですが、男性の取得はなしで女性のみ取得です。6年度中、産休の対象者はございませんでした。その他、看護休で2名というところの取得状況でございます。

○岡本委員長 ごめんなさい、もう一遍。

○花倉室長 看護の。

○岡本委員長 ああ、看護休。はい。それも女性ですかね。

○花倉室長 すみません、男女比をこちらのほうは確認しておりませんので、また後ほど。

○岡本委員長 ちょっと、その育児休業が女性のみというのは、ちょっと育児休業なのか、産休なのか育休なのかっていうところもありますけれども、育児休業であったら男性も取れるはずなんです、それが女性のみというのはどうなのでしょう、やっぱり男性は

取りにくいというような空気があるのかなと思うんですが。

花倉室長。

○花倉室長 すみません、言葉が足りませんでしたけども、男性のほうは対象となる方がおられなかったということで取得がなかったというものでございます。

○岡本委員長 分かりました。

そしたら、よろしいでしょうかね。

じゃあ、次に、29ページ、文書管理事務。

岩崎昭男委員。

○岩崎委員 6年度から電子決裁システム、文書管理の関係のシステムを入れられたということなんですが、6年度は電子の部分と紙での併用ということで運用されておったんですが、これのシステムというのは、いわゆる、何ですかね、この役務費の中で運用保守業務ということで330万円出てるんですが、これは、たしか7年度にもやっぱり同じように予算が上がっておるんですけど、これはいわゆる、表現的には運用保守という表現なんですけども、毎年定額を払っていくような、使用料的なものなのかどうかということを伺います。

○岡本委員長 花倉室長。

○花倉室長 側面的にはそのようなものになるかと思います。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 これはクラウド型でどっかの、要は庁舎外のところにデータがあるものなのか、やっぱりどっかの役場内のサーバーとか、そういうものを共有してるのか、どういう形の仕組みのものかいうのを教えてやってください。

○岡本委員長 花倉室長。

○花倉室長 データにつきましてはOECという会社のサーバーを利用、OECという。

○岩崎委員 OEC。

○花倉室長 はい。そちらのほうにデータを保存しております。

○岩崎委員 クラウド型ね。

○花倉室長 はい。

○岡本委員長 よろしいですかね。

ほかには、いいですか。すみません。

櫃田洋一委員。

○櫃田委員 ペーパーレス化を図ったというふうにありますけども、先ほどクラウド型っていうのである程度あれしたのですが、確実にペーパーの購入量、紙の使用量というか購入量が減ってるのかどうか。あるいは、以前であればバックアップのために紙でも保存するっていうようなところもあったんですけども、今は紙が確実に減っているのかどうか、どうなんでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。確実に減っているかと言われるとちょっと弱いところはあるかなと思っておりませんが、この電子決裁、決裁を取るに当たって、これまでは必ず紙で、さらに疎明資料をつけてというなどしておりましたが、それが今は電子上、PDFファイルで見えていただけるようになったので、そこに使う紙というのは減らせたかなと思っております。ただ、事務の中で、例えば国に出す書類であったり、必ず郵送しなければならないとか、5年間は書類で残しなさいと言われてるものの中にはありますので、必ず全部電子だけでというものではない部分もあります。ですので、必ず減っているかと言われるとちょっと弱い部分はあるかなと思いますが、それにつながるような取組を始めることができたというふうに思っております。

○岡本委員長 よろしいですか。

○櫃田委員 はい。

○岡本委員長 そしたら、次は、同じページの財政管理事務について。

大西保委員。

○大西委員 一番下の積立金の1億4,500万円、3つの項目で基金ということですが、これは令和5年度の決算のときは1億9,800万でなっておりましたが、これは減ったのか、これは単独で出してるのか、どういうことでしょうか。この積立額の3つの項目は継続性のあるものでしょうか。確かに、公共施設等で令和5年度では1億3,400万、それが1億1,800万になって、これは減ってるような気がするんですが、積み足していつてるのか、これが今、使った後の残なのか、ちょっとそれ教えてください。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。御指摘いただきました積立金につきましては、前年度の繰越額に応じて積立てを行っております。ですので、繰越額が前年度より下がったというところもありますので、その分、積立額も下がっているものになります。

まち・ひと・しごと創生推進基金につきましては、ふるさと納税のものを年度末等に受

けた場合に、来年、6年度、今回で言う7年度中に充当するという事で上げさせていただいているものになります。1, 510万円の内訳といたしましては、町有林の新植に300万円、林業アカデミーの委託料のところに210万円。ホタル、イチョウの保全活動というところで1, 000万円という計画をさせていただいております。

○岡本委員長 よろしいでしょうか。

○大西委員 はい。

○岡本委員長 そしたら、次は、30ページ、町有財産整備管理事務。

岩崎昭男委員。

○岩崎委員 サウンディング調査を6年度から始められて、この中に提案が2社であってというような表現があるんですが、これ、3社じゃなかったんですかいね。ちょっと確認を。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。サウンディング調査につきましては、当初3社いただいておりましたが、1社取下げられたというところで最終2社になったという流れもあって、2社と書かせていただいております。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 いや、それだったら1社じゃないですかね。うそかいね、2社。今、残ってるの花口だけですよね。何かちょっとよく分からんですけど。

○岩崎委員 3社、三本松とフラワーセンターが2つあったんじゃないかな。フラワーセンターは2つこけて、代わりにフラワーセンターから三本松をとってという話なんで、提案自体は3社あってということじゃないですかね。提案はあったんだ。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。最初は5社、サウンディングツアーに参加いただいたのは5つあったんですけども、その中から3社、3事業者さんから提案に向けた動きをしていただいております。ですが、実際、提案をいただいたのは、1社やめられたので、2社から提案をいただいて、最後、提案はいただいたんですけども、最終1社がまた取り下げられたので、最後まで残ったのは1社という形になります。一応、提案は2社いただいたというところで。

○岡本委員長 近藤仁志委員。

○近藤委員 同じサウンディングですが、同僚議員の一般質問の中で、先ほど説明があっ

たように参加事業者が少なかったという反省があったわけなので、その要因として立地条件とか、要するに駅から遠い、中心地から遠いとか、そういったような条件を説明を受けたように記憶しております。一般質問のほうで答弁されていたように思いますが、これはどうしようもないことなんです、そういったのを踏まえた今後、やはりまた来年度に向けても、このサウンディング調査の場所いうかな、その建物を再度また募集するというような考えのようですが、これは何か解決というかな、それを有利に導くための方策というのは、ある程度検討とかされているわけなんですか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 失礼します。今年度以降のサウンディング調査の取組につきましては、一般質問の際に町長からの答弁にもお伝えいただいたかなと思ってはおりますが、まずは町としてどういった施設をどう扱うとか、こういった場合にはどうするといったようなルールですとかマニュアルというのをきちんと整備しまして、例えば、何年たった施設については検討を始めるですとか、それが何回も出したけども利用が全くないまま何年もたったら、もう廃止というか解体も検討するとかってというようなルールをきちんとまずつくろうと思っております。

また、御指摘いただいた町の特性として、施設が点在しているとか、駅から遠いというところはサウンディングに限らず、正直、町でどうにかできる話ではないと思っておりますので、解決になるかというとなかなか難しいかとは思いますが、まずはホームページのほうに地図情報ですとか、写真、例えば見取図とかっていうのをお出しして、いつでも見ることができる。例えば、今月、9月は中を内覧会みたいなことをするので2週間前までに申し込んでくださいとかっていうのをいただければ、例えば中の実際に見に行くことができるですとかというような、そういった募集をするルールですとか、流れというのをも整理することで、いつでも関心を向けていただけるような流れをつくっていければというふうに考えております。

○岡本委員長 よろしいでしょうか。

そしたら次のページ、31ページの庁舎管理事務について。（「なし」と呼ぶ者あり）

よろしいですか。じゃあ私から1つ。ちょっと、庁舎管理になるのか総合文化センターになるのかなんですが、前に一般質問でもお聞きした、被爆アオギリですね。以前よりは囲いが作られて大切にされてるのは分かるんですけども、一般質問でプレートなどの設置ということも検討していただけるということだったんですが、その後、どうなってるん

ですか。これは総務課じゃないですか、もしかして。すみません。

實延総務課長。

○實延総務課長 一般質問で町長答弁された中にもあったところと重複いたしますが、設置につきましては、職員組合の青年部が設置、設置と申し上げますか、あそこへ植樹をしたという経過でございます。プレートの御意見も頂戴しておりました。あそこで、今、御覧いただいておりますと、1年でもう背丈を超えるような大きさまで成長するような、非常に成長の早い樹木でございます。いろいろと、降雪、雪の影響でしたり、周辺への影響等も鑑みまして、移設というのを検討しているというのも申し上げられたとも思いますが、改めて現状でございます。イチイ荘の周辺に移設をするようにタイミングを今見計らっているような状況でございます。それに併せまして、プレートの設置についても職員組合のほうで検討いただいているような状況ということで、現在進行中というふうに御理解賜りたく存じます。

○岡本委員長 イチイ荘の周辺で、それは、職員組合の希望でという感じなんですかね。

實延総務課長。

○實延総務課長 1つ、いわゆるモニュメントでしたり、意義でしたりというものもございますし、また、町有地でしたり、そういった関係施設、民有地というのは除外をさせていただいた中で候補地も検討する中で、関係者とも意見を頂戴する中でイチイ荘の近くの町有地に移植、移設するというので今現在進めてございます。

○岡本委員長 分かりました。

ほかにございませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

そしたら次、32ページ、庁用自動車管理事務について、どうですか。

大西保委員。

○大西委員 小さな金額ですけども、小さな金額いうか、使用料のところで、貸切バス使用料という20万の予算があって、実績が1万1,000円なんですね。貸切バスで1万1,000円というのは逆に安いのか、外部の貸切バスなのか、当然外部の貸切バスだと思うんですけど、それにしても破格の値段と思うんですが、この1万1,000円はどのようなことで使用されたのでしょうか。

○岡本委員長 分かりますでしょうか。もし時間かかるようであれば。大丈夫ですか。

實延総務課長。

○實延総務課長 ちょっと表現に誤りの可能性もありますが、高速の利用料でしたり、そ

ういった部分での使用料という実績はあったように認識をしてございます。バスそのものを借りますと委員御指摘のとおり費用がかかりますので、この辺りはちょっと改めて確認をさせていただきたく存じます。

○岡本委員長　じゃあ、後ほど御報告をお願いします。

ほかによろしいですか。（「なし」と呼ぶ者あり）

同じページの交通安全対策事業について。（「なし」と呼ぶ者あり）

そしたら、ページを送りまして33ページ、自衛官募集事務について。（「なし」と呼ぶ者あり）いいですかね。

そしたら、選挙管理委員会一般事務について。（「なし」と呼ぶ者あり）

じゃあ、次、34ページ、衆議院議員選挙執行事務について。（「なし」と呼ぶ者あり）いいですか。

そしたら、じゃあ、一旦ここで休憩を入れたいと思います。再開を14時15分とします。

〔休　憩〕

○岡本委員長　決算審査特別委員会を再開いたします。

総務課の審査を継続します。

初めに、先ほど回答を保留されてたことについて回答していただきます。

石倉室長。

○石倉室長　失礼します。先ほどの庁用自動車管理事務のところ、使用料、賃借料の内容は何かといった御質問をいただいた内容についてですが、確認しましたところ、高速道路の使用料であることを確認しました。バスで高速道路を使った際の使用料ということで、ちょっと内容が不適切だったかなと思っております。失礼しました。

○岡本委員長　花倉室長。

○花倉室長　続きまして、職員福利厚生事業のところ、看護休暇2名取得ということでお伝えしましたがけれども、そちらの取得は、男性1名、女性1名の取得ということで確認をいたしました。

○岡本委員長　ということでした。

そしたら、続きまして、35ページ、非常備消防管理運営事務から最後まで説明をお願いします。

實延総務課長。

○實延総務課長 それでは、35ページから説明に入らせていただきます。

非常備消防管理運営事務でございます。決算額1,994万6,021円、比較211万3,652円の増でございました。主な増額要因でございますが、消防団員用の雨衣50着分の購入費184万円が新規の増となりました。訓練活動につきましては、ポンプ操法大会に2分団出場したため参加人数の増となりました。主な成果・課題、執行経費の内訳等につきましては、記載の内容を御確認お願い申し上げます。

続きまして、36ページ、消防施設整備管理事業でございます。決算額1億7,263万9,626円、比較6,405万2,201円の増でございます。主な増額要因でございますが、日野上分団、それから福栄分団の消防ポンプ車購入費の皆増でございます。また、西部広域負担金につきましては、815万5,000円増となっております。課題として記載してございますが、老朽しております消火栓や防火水槽の更新、標識やフェンスなどの故障につきまして、地域の皆様から要望を頂戴しております。本定例会中でも補正予算、現在上げさせていただいておりますが、今後も計画的に更新してまいりたいと考えてございます。その他、執行経費等につきましては御確認をお願い申し上げます。

続いて、37ページ、防災対策事業でございます。決算額2,555万7,456円、比較1,293万4,307円の増でございました。主な増額要因でございますが、職員人件費の増でございます。また、避難所改修支援費が約320万円増となっております。集落の除雪対策としまして、過去に整備支援を受けられなかった3自治会へ助成を行いましたが、約300万円の増額となっております。防災士の育成支援につきまして継続して行い、実績は6人でございました。その他の経費につきましては記載の内容でございます。御確認をお願いいたします。

続きまして、38ページ、単独災害緊急対策事業でございます。決算額20万円、比較20万円の皆増でございます。令和6年11月豪雨の影響によります災害対策としまして、5件の交付決定を行いましたが、うち4件につきまして、令和7年度へ繰越しを行ってございます。

続きまして、39ページ、公債費償還事務でございます。元金、利子、諸費とございます。元金につきましては13億6,326万553円、利子につきましては1,560万9,525円、諸費についてはゼロのそれぞれ実績でございました。事業概要に記載してございますが、元金のうち5億3,755万6,000円を繰上償還させていただき、将来負担の軽減に努めたところでございます。この繰上償還のルール上、手数料相当の諸費

の予算計上が必要ということで、3月補正でお願いをいたしましたけども、実際には補償金は発生せず、執行がゼロとなったところでございます。今後、中心地域整備を始めまして、公共施設の改修などが必要となってまいります。健全な範囲での運用に努めてまいりたいと思います。

以上、説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○岡本委員長 説明していただきました。

そしたら、35ページ、非常備消防管理運営事務から質疑を受けたいと思います。

大西保委員。

○大西委員 消防団運転免許取得助成補助金ということで7万円ですが、予算では25万ということで、中型免許で1名、もう1名オートマか何か、要するに2名を記されていたんですが、これ、内容7万円で当然1名だと思うんですが、どのような免許証でしょうか。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 運転免許補助金につきまして、6年度1名該当があります。内容につきましては、もともとAT限定免許だったものを限定解除するというものでありました。以上です。

○岡本委員長 よろしいですか。

○大西委員 はい。

○岡本委員長 ほかにございませんか。（「なし」と呼ぶ者あり）

そしたら次、36ページ、消防施設整備管理事業について。（「なし」と呼ぶ者あり）

そしたら私から1つ確認ですけれども、消火栓ですね、予算では更新3基ということだったんですけれども、決算でこれは2基というふうに減ったんでしょうか。ちょっとその辺りどうして減ったのか、説明していただければと思います。

関口参事。

○関口参事 御指摘のとおり当初3基で予定をしておりました。うち1基がどうやら水が通ってないらしいというところがありまして、あと、近くに自然水利があるということもありまして、その確認をするという時間も含めまして、昨年度は1基減らして2基ということで実施させていただいております。以上です。

○岡本委員長 分かりました。それで、じゃあ、その確認はその後されたんですか、まだされてないということですか。

関口参事。

○関口参事 これから実施させていただきます。

○岡本委員長 承知しました。

ほかにございますか。（「なし」と呼ぶ者あり）よろしいですか。

そうしましたら、37ページの防災対策事業について。

大西保委員。

○大西委員 防災士の取得ということで、計画では7名だったんですが、6名という実績です。それはいろいろ事情があると思うんですが、これによって、日南町内の消防関係で防災士を取得されてる累計人数というんですか、現状で、何名ぐらいになるんでしょうか。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 本事業を開始以来、昨年度末までに合計36名を養成しております。以上です。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 それで36名の方が現時点でおられるということで、各分団がありますが、その分団で、例えば、ゼロのところとか1名しかいないところとか、要するに、大体7分団だと思うんですけど平均したら5になると思うんですけど、その辺の人数的に、一番少ないところはやはり強化すべきだと思うんですが、一番少ないところの分団は何名おられるんですか。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 各分団1名ずつ養成はしておりますが、今年度に入りましてから1名退職しております、今一番少ないところでゼロ名というところがございます。

○岡本委員長 よろしいですか。

岩崎昭男委員。

○岩崎委員 予算に上がっておりました木造住宅の無料耐震診断の実施5件分というのがあったんですが、こちらの実績というのはどっか載っておりますかね。利用の実績はどうだったでしょうか。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 すみません、書面上載っていないかと思います。実際、実績は2件でした。

○岩崎委員 2件。

○関口参事 はい。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 それは、でも、委託料の中に含まれて、「等」というのに入ってるということですかね。この781万2,000円の中に2件分が入ってるということでしょうか。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 です、その「等」のところで含まれております。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 じゃあ、それが2件分が含まれとるということで、この募集というか、募集ですね、利用どうですかと、町民の方への周知っていうのは、いわゆる町政のしおりだけでやられたのか、もっと広く、5件のいわゆる予算を取っておきながら2件しかなかったとなると、やっぱりそれは周知が足りなかったんじゃないかと私は思うんですが、そこら辺の周知についてのやり方、どういうことやられたか伺います。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 周知に関しましては、まずホームページ、それからあと、文字放送と、防災無線で詳しくは文字放送をとった内容で実施いたしましたが、力及ばず。また今年度以降は考えたいと考えております。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 今ちょっとホームページ見ても、7年度も既に、これも事業もあるんだけど、どこにあるのかホームページ、よう見つけませんで。恐らく載ってないんじゃないかなと思います。この辺りの特に補助金をもらうとなると、防災無線とか町政のしおり、文字放送っていうのはきっかけにはなるんですけども、やはり詳細が知りたいとなると、要綱をしっかりホームページのほうに掲載していただきたいと思います。

それともう1点。内閣府クラウド型被災、何でしたっけね……（「被災者支援システム」と呼ぶ者あり）被災者支援システム使用料。このシステムは導入されたのかどうか、確認をします。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 今年度から運用開始ということになっております。当町だけではないんですが、なかなか本格運用というところまではたどり着けず、現在は運用の準備段階というところにあります。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 6年度には経費として必要でなかった、要は入れてないよということなのか、その進捗状況、6年度は予算は通ったんだけど、どうなったか、それを伺います。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 経過につきましては、今参事が説明しましたが、執行については行って
ございません。現在も進行形でこちらは鳥取県全市町村が一体的に取り組む、またさらに
申し上げますと、鳥取県と広島県と連携して取り組むというような大規模なものになって
おります。いずれにしましても、このシステムを有効に活用してまいりたいと存じます。
経費につきましてはゼロ執行でございました。

○岡本委員長 岩崎昭男委員。

○岩崎委員 そのときには、当初予算のときには県のICT協議会で検討、導入というよ
うなお話だったんですが、実際このシステムが導入が結局7年度には入るんですか。要は、
こうやって6年度予算が立つとって、それが先延びになったと。いつが運用が開始になる
ようなものですか、本来だったら6年度に必要だったんじゃないかと思うんですけども。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 今年度中の運用開始を目指して今準備段階でございます。

○岡本委員長 よろしいですか。

近藤仁志委員。

○近藤委員 危険木事前伐採事業のほうですが、これは県のほうの予算もいただきながら
やるということで2年にわたって河上のほうをやっておりますが、これは毎年県のほうか
らそういった補助金がついて対応されて今後ともいくのか、それに向けての準備など、要
するに、今、河上が済んだときは次はどこをすとかいうような、そういった地図上での
データをアップすとか予定をすとかいうのを準備はされておられるのかどうなのかを
伺います。

○岡本委員長 関口参事。

○関口参事 本事業ですが、県の事業は8年度をもって終了となります。現在のところ、
当初予定したまだ4分の1強というところで止まっております、来年度以降、引き続き
実施できないかどうか要望をする予定であります。

○岡本委員長 近藤仁志委員。

○近藤委員 河上地区重点的にやられてこられたわけなんです、やはり町内大変面積も
広いし、危険木が散見されるわけなんです。いろんな意味において、そういったのをやっ
ぱり準備して県のほうに要望なども進めていく上では必要ではないかと思いますが、その
点はどうでしょうか。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 委員御指摘のとおりだと思っております。説明しましたとおり、県の補助制度、一区切りが令和8年度までとなっておりますが、県の予算全体でも20件程度余りの補助額の状況です。河上地内で本町で400万円予算化させていただいて取り組みましたが、本年度も取り組んでおりますが、正直、その予算規模ではあまり、何ていいますか、抜本的な解消には至ってないということで3年目に本年入っております。次に、もうこれも、あまり不安をあおりたくはないんですが、大入峠辺りもかなりリスクは高いということもありますので、取りかかりたい、もうちょっと予算を膨らませたいという気持ちはありますので、引き続き要望枠を増やしていただきたいという要望は行ったところではございますが、引き続き行くとともに、本町、県補助制度はともあれ、本町としてできることがないかというのは、引き続き中国電力やN T T、関係機関とも協議してまいりたいと考えてございます。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 細かいことで申し訳ないんですけど、ドローン賠償責任保険、機体保険等で35万4,000円ですが、予算でいくとこれ4万円なんですね。ここの一番最初に総務課長が言われた、見やすくしましょう、決算でこうしましょう言うたときに、特にこの防災対策事業については、項目が20項目ぐらい予算あるんですが、要するに半分ぐらい減っておってですね。我々もどれをどう見たらいいか、「等」に入っとるか、正しく言えばそうですけど、やはり実績が計画がどうなったんか、それをできなかった場合、来年なり新年度でこうやってくとかいうこともならないと、本当にほか同僚委員も見てるときに、どれでしょうかと。やっぱり一番バッターの総務課がこういうことでは、ほかのところに言えないと思うんですね。そういうようなこと、いつもこういった、どれとどれと足して、説明される方も大変だと思うし、我々もチェックするのも大変なんですよ。これ一例ですけども、今言いましたように、このドローン賠償保険は予算で4万円ですけど、実績、「等」が入って35万6,000円上がってるんで、よう見れば、よう見れば、これとこれと足すんだとか、先ほどの危険木の場合も400万、それから耐震診断375万、合計250万、計算したら分かるんですけど、どれにどうなったかということ大変分かりにくい。

長く言いましたけども、私の質問は、今意見書出すかどうか置いといて、このドローン賠償保険はどれとどれを足して35万6,000円になっとるのか教えてください。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 言い訳がましく心苦しい面もございますが、昨年度決算、決算ベースでつくってきおったところの、やはりこれはしっかりと予算に対して決算という形で努めなければならないというのを改めて再認識させていただきました。今から記載した内容が不十分であったところも恐縮ではございますが、御指摘頂戴しております役務費のローンの賠償責任保険につきましては、3万3,000円という決算額でございました。それら、この役務費の中では予算説明資料に書かせていただきましたとおり、ローン以外にも衛星電話とメール配信のシステム利用料でありましたり、防災基地の仮設トイレのくみ取り料なども含まれております。いずれにしましても、これら決算が予算に対してどう執行されたというところは改めて、決算から決算ではなく、予算に対しての決算という書き方で努めてまいりたいと思います。申し訳ございませんが、御理解のほどよろしく申し上げます。

○岡本委員長 そしたら、一つ、私からお聞きしたいんですけれども、先日の新聞報道で、共同通信の調査ですか、全国の市町村に実施した避難所の準備状況に関するアンケートで、半数の自治体が、トイレ数、居住面積とも国の基準を満たさないというような報道がございましたが、これについて日南町はどうなのかということをお教えしてもらいたいんですけれども、いかがでしょうか。

関口参事。

○関口参事 詳細について、まだその辺り把握できてるものではないんですが、県内におきまして各市町村……（「それマイクに向かって言わないと」と呼ぶ者あり）

○岡本委員長 そうですね、マイクですね。私のほう向かなくて大丈夫です、マイク向いて。

○関口参事 各市町村同様の状態で、1人当たりの面積がどうなのか、いろいろ条件がありますが、それについて統一を図ろうということで、今、県内市町村、県が中心になりまして、その基準づくり、その上で日南町としても基準をクリアできるや否やというところを明確にしていきたいと考えております。基準ができない場合にはその避難所の数の問題ですとか、あるいは居住面積なのか専有面積なのかといった、そういったところの基準等もまだ決まっておりませんので、この後、詳細を詰めたいと考えております。

○岡本委員長 ちょっと待ってください、ちょっと分からないんですけれども、あくまでも、ごめんなさい、私も記事なんですけれども、国際基準を政府が取り入れたと、自治体向けの運営

指針を改定したというふうになってるので、基本的にはこれに基づいてどうかということを考えればいいように思うんですが、そういうことではないんですか、それでは駄目なんですか。

関口参事。

○関口参事 基本そうなんですが、基準がその1人当たりの面積ですとかトイレの数ですとか、そういったことで、トイレの数はいいんですが、専有面積といったところでその、どう説明しましょう。

○岡本委員長 つまり、専有面積といったときに、何を基準に専有面積を出すかということが分かってないという。

○関口参事 はい。

○岡本委員長 ああ、分かりました。はい、じゃあ、まあちょっとそれは、今は報告できないという、協議中ということですね。

○関口参事 申し訳ありません。

○岡本委員長 はい。承知しました。また分かったら教えてもらいたいと思います。

そしたら、ほかによろしいですかね、防災対策事業については。

そしたら次に、38ページ、単独災害緊急対策事業。（「なし」と呼ぶ者あり）

そうしましたら、次が39ページ、公債費償還事務ですが。（「なし」と呼ぶ者あり）

よろしいでしょうか。そしたら、ここまでで総務課が一通り終わりましたけれども、全体を通して何か質疑漏れ……。

大西保委員。

○大西委員 31ページの庁舎管理事務で、一番下の使用料、手数料の中の庁舎使用料、具体的に山陰合同銀行さんが46万5,000円ですが、予算上では64万4,000円になっておって、その差17万9,000円が差が出ておるんですが、これは別のところがあったのか、それとも下がったのか、どういうことでしょうか。

○岡本委員長 石倉室長。

○石倉室長 御指摘いただきました庁舎管理事務の財源の内訳のところですが、庁舎使用料ということで、自動販売機の分が16万7,000円、合銀さんの分が46万5,000円と、合わせて63万2,000円となります。当初予算、6年度の予算の際には64万4,000円としておりましたけれども、金額が下がっておりますのが、年度途中で自動販売機のほうを1台撤去されまして、使用されなくなったということもありましたので、

その分の使用料の収入が下がっているということになります。

○岡本委員長 大西保委員。

○大西委員 今の説明で分かりましたけども、予算書では、もうまとめて庁舎使用料だったもんで、決算書で2つの項目で足し算したらそうなりましたというように、やはり対比したときに何がどう減ったか増えたかということありますので、先ほどと同じことになりますけども、分かりやすいようにしていただければ、あえてこのような質問もしなくてもいいわけですから、よろしくお願いします。

○岡本委員長 ということで、答弁はいいですかね。

○大西委員 はい。

○岡本委員長 ほかによろしいですか。

高橋洋志委員。

○高橋委員 一つだけお尋ねしたいんですけど、27ページから28ページにも書いてありますけど、フレックスタイム導入されていく、この働き方がそのように段々増えていくのは分かりますが、これによって利用者である町民の方へのサービス低下というか、苦情といえますか、そういうのは実際入ってないんでしょうか。

○岡本委員長 實延総務課長。

○實延総務課長 今のところは御意見は頂戴してございません。ただ、他の市町村の例に見受けられますように、フレックスタイムに準じて兼業、副業でありましたり、あるいは庁舎の開閉時間の短縮というような動きもほかでは見受けられます。本町においても、この時間帯についてどうなのかというところでは、本年度から土日のセキュリティ上、安全上の対策をもって、土日については原則閉めさせていただいておりますけども、そういった動きというのも場合によっては図らなければならないというのは内部では検討してございます。ただ、委員おっしゃいますように、サービス低下にはつながらないような形、あるいは御理解をいただく形で進めてまいりたいというふうに考えてございます。今のところは御意見は頂戴をしてないところでございます。

○岡本委員長 よろしいですかね。

○高橋委員 はい。

○岡本委員長 そしたらちょっとごめんなさい、私から1つだけちょっと確認ほどさせてください。26ページの定員管理状況なんですけれども、前にいただいた計画では、病院とそれ以外とが別々になっていまして、総数は176で合ってる、同じなんですけれども、

それぞれどうだったのかということ確認だけさせてください。

花倉室長。

○花倉室長 職員の内訳です。正職員が１０１名、あと、すみません、それから再任用職員３名、会計年度任用職員が７０名、うちパート職員さんが２４名、フルタイム職員さんが４６名、それから特別職の３人を足して１７６という数字になっております。

○岡本委員長 ちょっと待ってください。これは公営企業等ということで病院を含めた正職員の数ではないんですか。１０１名が正職員の数だと、病院を含めると大分少ない気がするんですけども。病院っていうのはそういう意味じゃないか、そういう意味ではないんですか、病院っていうのは病院関連で町のほうで働いてる職員の方という意味合いか。病院そのものは含んでないわけですね、ここには。（発言する者あり）ちょっと、病院っていうのはどういう意味合いなのか、それだけ教えてください。公営企業等の病院って書いてありますけども。

花倉室長。

○花倉室長 すみません、確認して後ほど一覧表で出させていただければと思います。

○岡本委員長 そうですか、すみません、じゃあお願いします。

そしたら、ほかにはございませんでしょうか。（「なし」と呼ぶ者あり）

そしたら、本日の総務課の決算審査は終了したいと思います。

それで、改めて、毎回のことなので言うまでもないかもしれませんが、審査意見、それから、今日のもいいですし、これからの審査に関する資料の請求、それから追加聞き取りの要望などは随時お受けしておりますので、あれば事務局のほうまでよろしく願いします。

それでは、本日の決算審査特別委員会、閉会いたします。どうもお疲れさまでした。
会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 年 月 日
委員長

副委員長